

ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」の マメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

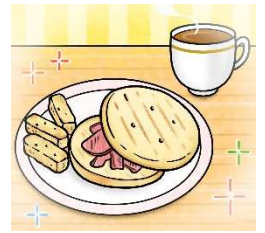
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

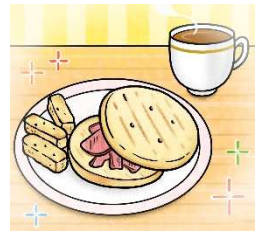
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

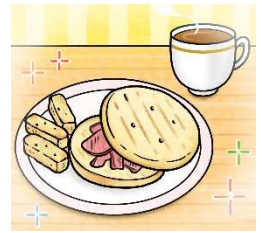
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

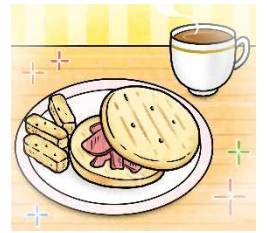
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

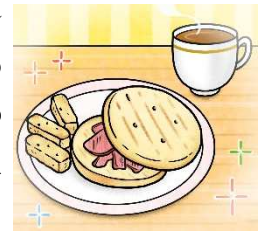
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ

ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつで



しょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

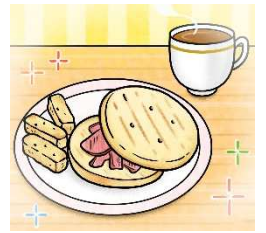
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

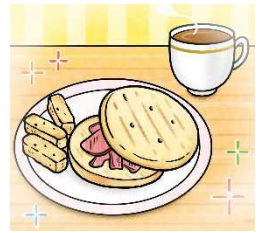
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

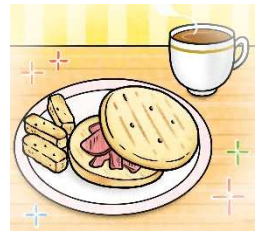
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」の マメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

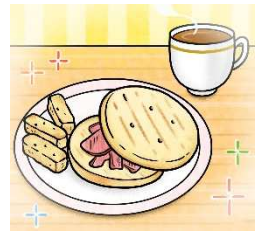
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」の マメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

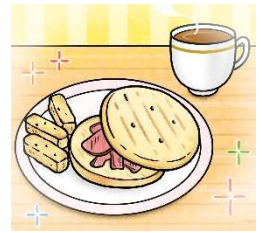
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

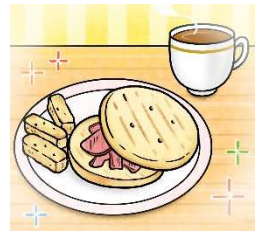
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」の マメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

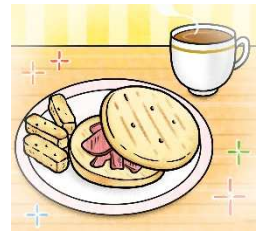
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

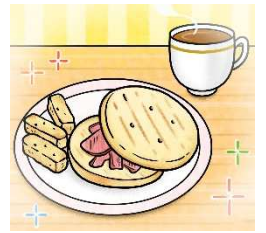
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

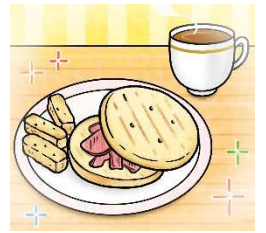
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ

ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつで



しょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

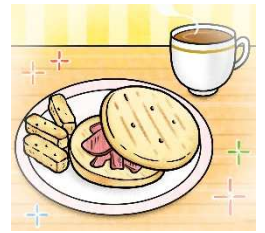
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

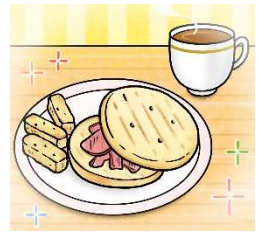
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

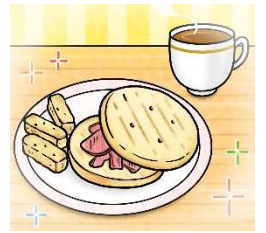
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

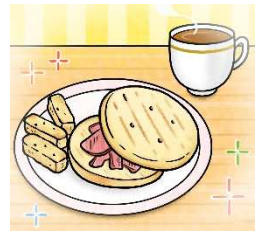
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

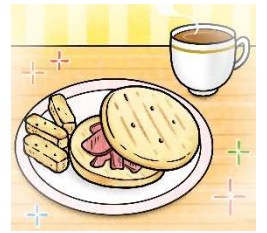
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

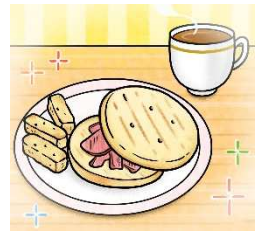
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ

ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつで



しょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

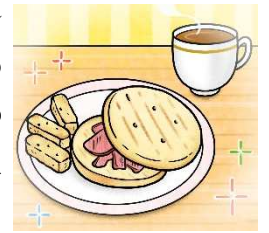
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

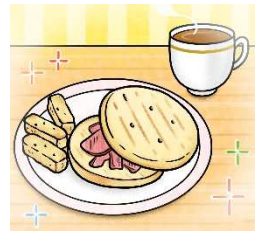
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」の マメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

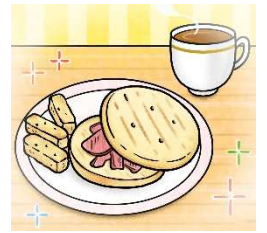
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

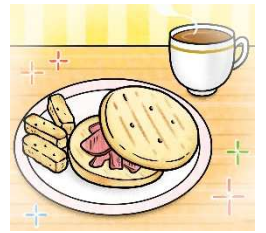
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

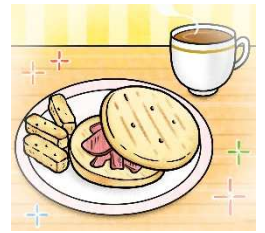
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

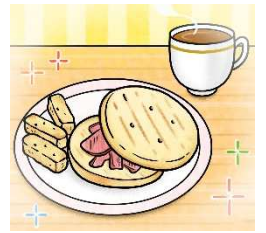
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

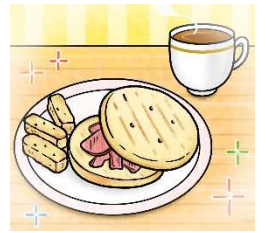
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」の マメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によって今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

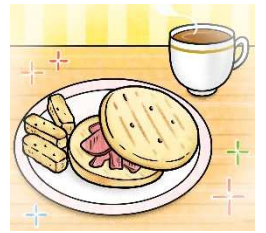
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

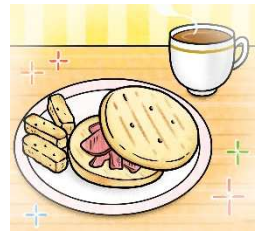
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところに出るものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。



ヤマダ会計ニュース

8月号 vol.104

税理士法人 ヤマダ会計

「認定 経営革新等支援機関」



〒 432-8021

静岡県浜松市中央区佐鳴台一丁目6番11号

TEL: (053) 448-5505 FAX: (053) 448-6269

<https://www.yamadakaikei-go.jp/>

昨年のお阪・関西万博で話題になった「人間洗濯機」。もともとは展示物でしたが、なんとアメリカ企業5社に納入する予定だとか。この洗濯機の原型は1970年の大阪万博で披露された、カプセルに座るだけで体を洗ってくれる未来型「全自動お風呂」。昭和が夢見た未来が令和になってまさかの商談成立とは驚きですね。

知っとこ! 「税」のマメ知識



今月のマメ知識:【ビール、発泡酒、第三のビールの税率が一本化】

わが国の酒税は、酒類の製造方法や原料によって細かく区分されています。発泡性酒類についても「ビール」「発泡酒」、第三のビールと呼ばれる「その他の発泡性酒類」に分類されています。これらの区分は、原料で



ある麦芽の使用割合や副原料、製法などで決まるため、その仕組みは非常に複雑です。こうした複雑な酒税体系の簡素化や税負担格差の是正を目的として、2020年10月から段階的にビールの税額が引き下げられる一方、発泡酒と第三のビールは引き上げられてきました。そして最終ステージとなる2026年10月には、これらの税率が一本化され、350ミリリットル缶換算で一律54.25円の酒税となる予定です。これまで各メーカーは税率差を踏まえた商品開発を行ってきましたが、税率の一本化によ

って今後は価格面だけでなく、味や品質、商品の個性などが、より重視される可能性があります。今後の市場動向にも注目していきたいところです。

世界の偉人伝

今月の偉人:【ディケンズ】

チャールズ・ディケンズは、19世紀のイギリスの小説家です。イギリス南部の中流家庭に生まれますが、父の浪費癖により破産、靴墨工場の児童労働者となり辛苦を舐めました。15歳からジャーナリストを志し、24歳で小説家として名声を手に入れます。代表作は「オリバー・ツイスト」や「大いなる遺産」。生き生きとした人物描写に、ユーモアとペーソスが特徴です。ベストセラーの「クリスマス・キャロル」は大衆にクリスマスの精神を定着させ、今でも世界中の人々に愛される名作です。

気軽に Let's 英会話

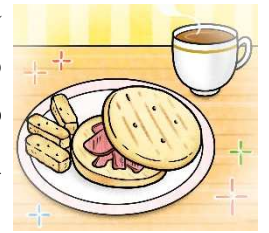
今月のキーワード:【once-in-a-lifetime】

8月12日に欧州で日食が発生しますが、皆既食で時間が長いアイスランドとスペインでは観光客が殺到する見込みだとか。「一生に一度の出来事(once-in-a-lifetime event)」だと思えば、混んでいても見に行きたいのでしょう。“Don't miss this once-in-a-lifetime opportunity!”で「この千載一遇のチャンスを逃すな!」です。アイスランドでの次の皆既食は2196年6月26日ですが、前回の発生が67年前だったスペインでは2027年8月2日に再び皆既食が見られるそうです。



今月のトピック：【モーニング】

朝の外食、モーニングブームの再来です。夜営業が頭打ちのファミレスやファストフードの大手チェーンが続々と参入しています。今回の特徴は低価格。サイゼリヤの脅威の300円台を筆頭に、500円以下のメニューの実現はモバイルオーダーやセルフレジ導入など徹底した効率化の賜物です。企業努力の恩恵による豊かな朝時間に感謝です。



才人の言葉

人生なんて結局は
自分の物語と一生かけて
つくっていくようなものだ

日本の博物学研究家、小説家などでもある荒俣宏の言葉。人生は「自分」というジグソーパズルのピースをはめ込むようなものだ。何をしていても最後は「自分」になる。

振り向けばあそこにも「商売のヒント」 ここにも

今月の商売のヒント：【数字の裏側を見る力】

経営者は数字に助けられます。売り上げ、利益、前年対比。数字は会社の状態を教えてくれる大切な道具です。けれど、数字にだまされることもあります。良く見える数字ほど、その裏側は見えにくくなるものです。ある会社に長く売れ続けている商品がありました。毎月の数字を見ても安定していて、経営会議ではいつも「これは残そう」という結論になります。ところがある日、現場の社員がぼつりと言いました。「あの商品、売れるんですけど、説明と対応にものすごく時間がかかっています」。調べてみると、売り上げは立っ



ているものの、問い合わせ、修正対応、クレーム処理に多くの時間が使われていました。数字の上では優等生に見えていた商品が、実は現場の体力を少しずつ削っていたのです。目立つ数字だけで決めないことは判断力のひとつでしょう。売り上げがある。利益が出ている。長く続いている。そうした事実はもちろん大切です。しかし、そこにどれだけの手間が隠れているか。誰の負担で成り立っているか。未来の信用を前借りしていないか。そこまで見なければ判断したことになりません。経営者は「結果の数字」を見ることに慣れていますが、会社の本当の状態は「数字になる前」のところにいるものです。社員の小さなため息、顧客対応の手戻り、会議では語られない疲労感。そこに目を向けられるかどうかで判断の質は変わります。怖いのは、決して間違えることではありません。うまくいっているように見えるものを疑えなくなることです。会社を守る判断は、ときに「売れているもの」を見直す勇気から始まるのだと思います。

トナリの本棚

【本なら売るほど】

マンガ大賞を受賞した児島青の漫画。古本屋に本を買う人、売る人が訪れ、本と人生をめぐる物語が繰り広げられます。本好きにはたまらない楽しい一冊です。



卵を割ったときに殻のカケラが料理に入ってしまったら、半分に割れた殻でカケラをすくってみましょう。卵の殻同士は引き寄せ合うようにくっつく性質があるので、小さなカケラも意外なほどすんわりとすくえます。指で取るより簡単でおすすめですよ。

